

◆重点普及課題の進捗状況(評価)

魚類加工品の開発(与那国町漁協)

山本隆司・山川晴生・吉田 聡

1. 年次到達目標

(1)平成10年度

- ・加工事業本格実施に向けた協力体制(検討会)確立
- ・加工試験の継続実施・試作販売・品目の絞り込み
- ・パッケージの検討
- ・加工原料の水揚げ状況調査
- ・漁協加工品販売状況調査

(2)平成11年度

- ・生産体制の確立(婦人部の位置付け)
- ・販売方法の検討(空港売店、学校給食、郵パック等)
- ・経営面からの検討(生産量、原料買い取り価格、人件費、販売価格等)

(3)平成12年度

- ・生産・販売の実施

2. 進捗状況

平成10年度は、生活改良普及員の指導によりカジキみそ、カジキ佃煮、カジキ干物等の加工品の試作を行い、製品化の目途を立てた。

平成11年度は、さらなる加工品開発や販路

調査、内部の生産体制並びに施設整備の参考とするため、先進事例として渡嘉敷漁協の加工施設を調査見学した。

平成12年度は、内部の生産体制確立のため、漁協長、町経済課長、漁協婦人部長とで会合を持った。

3. 評価

与那国町漁協では、カジキの干物やふりかけ、セーイカ・タコの塩から等を製造し、空港直売店で販売している。現在1人の漁協職員が製造から販売までを担当しているため小規模生産しかできていない状況である。重点普及課題である魚類加工品の開発についてはおおむね成果が得られたと思うが、本格的な生産販売の実施については、今後の課題として残った。

平成12年度には、内部の生産体制について検討した。その結果、漁協婦人部サイドとしては、魚類加工品の製造体制を組むことはできるが、核となる漁協長が、どうしようかと迷っている状況に見受けられた。漁協長は、クルマエビ養殖事業のことで頭が一杯であった。



かじきのふりかけ



かじきの干物



与那国町漁協空港直売店